

令和3年度だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業



# 避難所開設訓練

2021



# ダイジェスト



# 《 だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 》

大仙市教育委員会事務局 教育指導課

## 本事業でねらう3本の柱

- 「自分の命を自分で守る子ども」の育成
- 小・中学生によるだいせん絆プロジェクト
- 自主防災組織づくりから広げる地域力の向上

## 防災教育に関わる市内小・中学校の主な取組 【これまでの取組】

### ～ I・支援と交流 ～

- ①被災地支援  
＜全小・中学校＞  
・募金・米・文房具などの送付
- ②被災地訪問による交流  
＜市内4中学校・8小学校(H29)＞  
・部活動交流、グラウンドゴルフ、だまこ汁の提供、清掃奉仕活動、プランター花のプレゼント、花火大会
- ③中学生サミットによる支援  
・ヘルメットや図書の寄贈、被災地訪問による交流と学習会  
・交流活動の報告会

### ～ II・国や市の事業 ～

- ①H23 福島っ子との交流事業  
市内5小学校、3地域  
・冬祭りへの参加や音楽交流、郷土料理体験
- ②H23～H25復興教育支援事業  
(文部科学省指定) <大曲中>  
・創作花火の打ち上げや鉢花贈呈、若竹町内会との合同避難訓練
- ③避難所開設訓練  
H25 平和中 H26 大曲西中 H27 西仙北中  
H28 仙北中 H29 太田中 H30 大曲南中  
R1 豊成中 R2 南外中
- ④市総合防災訓練への参加  
H23中仙地域 H24南外地域 H25協和地域  
H27太田地域 H28大曲地域 H29県冬季防災訓練  
R1西仙北地域

### ～ III・計画等の整備 ～

- ①「学校安全計画」「危機管理マニュアル」「防災教育年間指導計画」等の整備  
・整備の実態把握と改善
- ②「大仙市版・避難所対応マニュアル」の提供  
・総合防災課との連携による計画立案
- ③各学校における緊急連絡体制の整備  
・携帯電話等による電子メール配信システム整備

## 【課題】

- ★地域の実態に即した避難所開設の在り方
- ★自主防災組織と連携した防災活動
- ★市内小・中学校の防災ラジオの整備及び受信環境整備

# 令和3年度の計画

## ～ I・交流の継続と充実 ～

被災地との交流

<市内2中学校>

- ・ 平和中⇄岩手県大槌町（吉里吉里地区仮設住宅）
- ・ 太田中⇄岩手県大槌町（大槌学園）

## ～ II・国や市の事業 ～

①市総合防災訓練

② **だいせん防災教育  
「生き抜く力育成」事業**

## ～ III・計画等の整備 ～

「危機管理マニュアル」等の見直しと改善

### **だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 避難所開設訓練**

実施日	令和3年9月30日（木）
実施場所	大仙市立協和中学校 校舎
参加者	協和中学校全校生徒及び教職員 地域自主防災組織代表住民 市内中学校生徒代表及び教職員 消防署等の関係機関 等
主催	大仙市教育委員会事務局教育指導課及び総合防災課

#### ～主な活動～

- ①生徒避難
- ②避難所開設
- ③地域住民避難
- ④避難所運営
- ⑤避難者への食事の提供

- ・ モデル校の実践として、地震発生時の避難訓練、避難所開設に関わる初期対応の実際を体験させる
- ・ 地域住民との防災訓練及び体験を通して、自助から共助へと主体的に行動する力を身に付けさせる
- ・ モデル校の実践に中学生サミットメンバー及び市内教職員が参加することにより、市内各地域の自主防災に対する意識の高揚を図る

## **事業による成果を生かす**

「総合的な学力」を身に付け、「自分の命は自分で守る」児童生徒の育成に **“つなげる”**  
協和地区の防災モデル実践の成果を大仙市内全域に **“広げる”**

**小・中学生が主体的に社会参画する地域づくりへ**

令和3年度「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」避難所開設訓練

大仙市立協和中学校

- 1 ねらい (1) 地域の地理的条件を踏まえ、地震発生時の避難訓練と避難所開設に関わる初期対応の実際を体験し、災害時の迅速かつ適切な行動や避難所開設に係る役割や支援の方法を身に付ける。  
 (2) 学校、地域住民（地域自主防災組織）、関連機関との協力体制を確認するとともに、連携した訓練を通して、自助から共助へと主体的に行動する力及び防災に対する高い意識を身に付ける。  
 (3) ICT機器活用の可能性を検証する。また、訓練の様子を記録し中学生サミットメンバー及び市内教職員と情報を共有し、市内各校の自主防災に対する意識の高揚を図る。
- 2 実施日時 令和3年9月30日（木）9：40～12：10頃
- 3 場 所 協和中学校校舎及び校地内
- 4 参加者 協和中学校生徒（97名）、協和中学校教職員16・GIGAスクールアシスタント1（17名）  
 大仙市教育委員会職員（7名）、大仙市教育委員（1名）、大仙市総合防災課職員（6名）  
 協和支所4・公民館職員1（5名）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・総計 133名
- 5 想定内容 9月30日（木）午前9時40分頃、協和境地域を震源とする直下型の強い地震が発生し、協和地域全域で震度6弱を記録した。協和中学区の多くの家屋が倒壊し、水道・電気のライフラインがあちこちで停止したほか、電話も一部不通になった。通常的生活が営めない状況になり、各避難所に市民が集まることが予想された。大仙市災害対策本部（総合防災課内）からの避難所開設要請を受けて、倒壊を免れた協和中学校においても、避難所を開設することとなった。協和中学校では2校時の授業時間に地震が起こった。そのため、生徒達の身の安全確保のために協和中学校にとどまり、避難所の開設・運営に協力する運びとなった。
- 6 実施内容 訓練1 授業中における地震発生時のシェイクアウト訓練および避難訓練。  
 訓練2 学校長による避難指示発令後、体育館と校舎C棟を中心に生徒主体の避難所開設。

班名	主な活動内容
総務	事前活動計画及び各集会の企画運営、居住スペース割り当てと確認、記録（全活動場所）
救護	救護所設置、負傷者等への応急処置、アレルギー調査、健康チェック
情報・広報	受付名簿作成、案内表示、避難者への情報伝達、ICT活用
食料・物資	必要物資の運搬配給、物資搬入、炊き出し
衛生管理 ボランティア	ゴミ箱の製作設置、簡易トイレの設置、パーティション作り、簡易テント設置、避難者誘導

8 活動の様子



<各班リーダーによる事前会議>



<備蓄備品の確認>



<Wi-Fi状況確認>



<地震発生時シェイクアウト訓練>



<頭部を守りながらの避難>



<避難所開設要請後の打合せ>



<検温を含めた一次受付>



<ピクトグラムを用いた掲示>



<テント設営の様子>



<換気対策のサーキュレーター>



<タブレットで情報集約>



<保存食の調理>



<ICT機器の活用>



<各班の情報を掲示>



<避難所完成>



<班ごとの活動の振り返り>



<自主防災組織への引継ぎ>

コロナ対策により当初の計画から規模縮小となりました。ピンチではなくチャンスと捉え、生徒の目線で計画から見直し、3年生のリーダーシップのもと、生徒主体の活動ができました。

# 岩手・大槌学園との交流 11回目

【本年度の活動】

令和3年度も感染症対策のため、花のプランターを大槌学園に贈呈

プランター150個



<3年生によるプランター積み込み作業>



<トラック積載と協力いただいた太田の方々と3年生>



<プランターに添えたポスター>

# 防災教育 新たなステージへ



<ロープワーク体験と装備品の見学>



## 自衛隊防災講話と体験

<ねらい>

○防災等講話、体験的な活動を行うことにより、実践的な防災・安全行動を身に付ける

<実施内容>

- 防災講話  
自助と共助 太田地区災害見積
- ロープワーク体験
- 傷病者の搬送と簡易ベッド作成
- 陸上自衛隊の各種車両見学と乗車



<傷病者の搬送体験>

支援から交流へ  
新たな取組

大仙市立太田中学校





大仙市教育委員会  
Daisen City Board of Education